



階上岳山頂付近にある湧水。山頂で水が湧くのは珍しいです。山頂に祀られている「岳大明神」は、山形県鶴岡市の善宝寺にある龍神の分身といわれ、雨と水の神様として日和乞いや雨乞い、地鎮に風鎮、豊作加護に信仰されています。



推定樹齢600年~800年。昔、敷地内にあったイチノ木の枯死して以来、当家に病人が「絶えず」。占い師に実のなる木を植えるように言われ、この樹を植えたとか。トチノキに実がなるとは病人が出なくなったという言い伝えがあります。県の天然記念物に指定されています。



赤松民部吉時の館跡に建立された神社です。館は、館主の吉時が1591年、九戸政実の乱において南部信直に味方したため九戸方の久慈備前、櫛引清長らに攻められ落城したといわれています。いつ建てられたのか不詳ですが、保存状態も良く、文化財としても貴重なものです。



かつては離島だった燕島は、昭和17年、旧海軍によって埋め立てられ現在のように陸続きになりました。江戸時代には歴代の南部藩主から庇護され、南部家御紋の向嶋を社紋として使用することを認められました。境内には「大正の三大美人」といわれた歌人、柳原白蓮の歌碑もあります。



南部藩は江戸時代、名馬の一大産地でした。ここ種差は八戸藩の主要な馬の育成牧場「妙野牧」の一部でした。放牧は1960年頃まで続き、馬が草を食むことで、芝生地の景観は守られてきました。放牧が行われなくなった現在は、人の手によって芝生地の景観が守られています。

# 種差海岸 インフォメーションセンター

~ スタッフが見つけた国立公園の歩き方 ~



平泉で自害したといわれている源義経は、実は密かに平泉を脱出して北上し、ついには五ノ宮で「ジギスカン」になったという「義経北行伝説」。義経は種差海岸から八戸に上陸し、マ熊野神社でしばし休息をとったといわれています。



漁労用具の収納、製造、修理作業に使用されてきました。漁の最盛期には食事や寝泊まり場、生活の場ともなりました。幕末期に建てられ、屋根は釘を使わずに造られた寄棟造りの茅葺きです。1993年、国指定文化財に指定されました。



1725年、高僧行基が観音像を祀ったことが始まりといわれています。その後1186年に経津主命を併せて祀ったことから、神仏混合の聖地として八戸藩はもとより盛岡藩主からも崇拝されたそうです。また、近くの貝塚からは縄文晩期のもものとみられる人骨や腰飾りが見つかっています。